

(1)

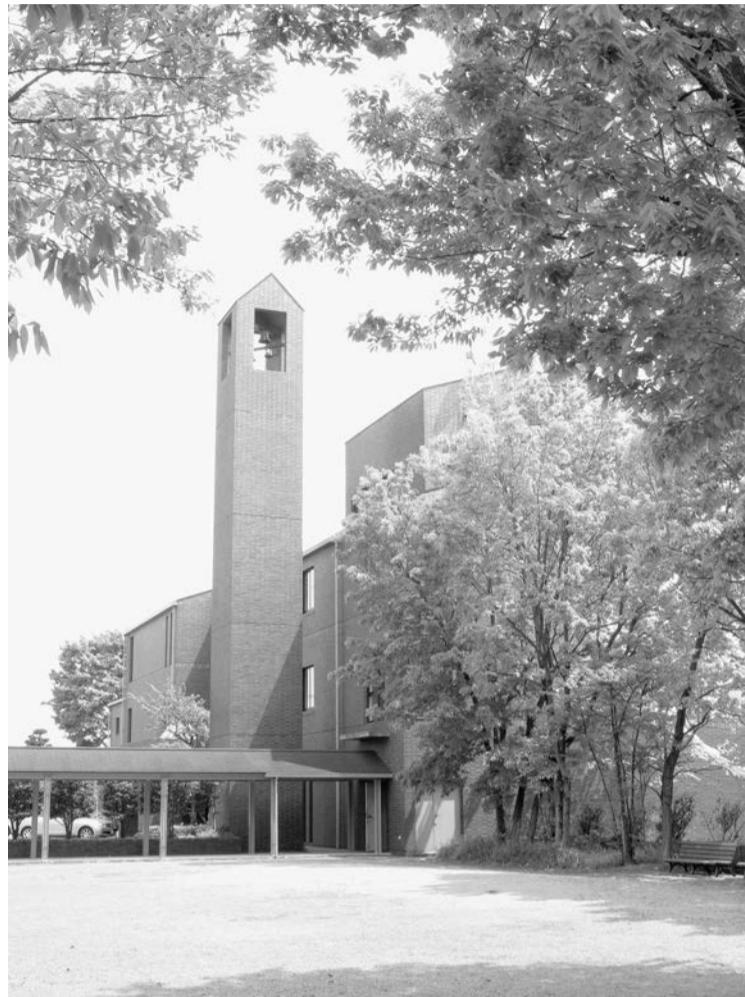
2012年9月15日

The Kyodan Times

(1933年12月28日 第三種)
郵便物認可 隔週土曜日発行

第4756号

教団新報



新島学園短期大学 (群馬県高崎市)

定価 1部140円(本体133円+税200円)
予約購読料 1年分 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替番号 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金をそえて、お近くのキリスト教書店へお申し込み下さい。
教會の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 内藤留幸
編集主筆 竹澤知代志
印刷所 株式会社かんし

心の和(なご)きもの その人は地を嗣(つ)がむ



《マタイによる福音書11章28~30節》

メッセージ

山下智子

(新島学園短期大学宗教主任)

以前会津若松で暮らしていいた時に、会津の方にどうして「この間の戦争」がイラク戦でも太平洋戦争でもなく、未だに1868年の戊辰戦争を指すことが多いことに驚かされた。戊辰戦争時、会津藩は一か月の厳しい籠城戦の末に敗れた。自虎隊の悲劇が生まれたのもその時だ。争いや対立がいかに大きな傷跡を残すかということを思う。

さて、かつてこの会津若松に「心和得天真(こころわすればてんしんをう)」と「心の和きもの」の2つの書を残した女性がいた。この地が生まれ故郷の新島八重(1845~1932)である。彼女は会津藩砲術師範の山本家の娘として生まれ、戊辰戦争時には断髪男装で銃

では八重の信仰とはどのようなものだろう。実は八重は「会津のジャンヌ・ダルク」などと呼ばれる戊辰戦争時の活躍があまりにも印象的であるため、そこばかりが注目されがちだ。八重自身も「八重の心を踏まえに簡単にしたものであ

たびたび籠城時の思い出を語り、日新館童子訓を暗唱できた。日新館童子訓とは会津の武士の心を子ども向けていた。新島八重は八重は新島襄と1876年30歳の時に結婚し14年間夫婦として共に歩んだ。そのため襄の信仰が八重の信仰に大きな影響を与えていた。例えば襄が八重に出した手紙には「何卒、武士の心ばかりには足らず、眞の信者の心を以て主と共に日々御歩み被下度奉希候」(『新島襄全集』第3巻)である。襄から見て八重はまだまだ武士の心ばかりが大きいと感じられたのかもしない。

襄の信者は心を以て主と共に歩み被下度奉希候(『新島襄全集』第3巻)である。襄から見て八重はまだまだ武士の心ばかりが大きいと感じられたのかもしない。

襄の信者は心を以て主と共に歩み被下度奉希候(『新島襄全集』第3巻)である。襄から見て八重はまだまだ武士の心ばかりが大きいと感じられたのかもしない。

忍耐することと許すこと

襄の信者は心を以て主と共に歩み被下度奉希候(『新島襄全集』第3巻)である。襄から見て八重はまだまだ武士の心ばかりが大きいと感じられたのかもしない。

心の和きもの

うことを次々と語り「感謝」と繰り返す姿を強く心にとどめている。

疲れた者重荷を負う者は

東日本大震災後の痛みの「感謝」と繰り返す姿を強く心にとどめている。

疲れた者重荷を負う者は

東日本大震災後の痛みの「感謝」と繰り返す姿を強く心にとどめている。

疲れた者重荷を負う者は

東日本大震災後の痛みの「感謝」と繰り返す姿を強く心にとどめている。

疲れた者重荷を負う者は

心和得天真

従軍し女性の社会貢献の道をしめし、また茶道師範として士族の男性のたしなみを持ち勇ましく戦った。

その後同志社を設立した。

新島襄と結婚しクリスチヤノとなり男女平等の新しい夫婦像を世に示した。襄の死後はボランティアの看護師として日清・日露戦争に重であった。会津の人々が

再び敗戦を経験した時に八重に注目したことは興味深い。

いくつか出展された八重の書の中に「心和」と「心の和きもの」も含まれてい

る。この2つの書は内容的に重なり合うものである。

「心の和きもの」はマタイによる福音書5章5節にあり

いくつも録り、その後同じく

が故郷の人々にこれらの言葉を残したといつことが彼女の信仰の証であり、故郷の人々への祈りであるよう

に感じられる。

主イエスの言葉で新共同訳では「柔軟な人々は幸いである、その人々は地を受け継ぐ」となっている。

自らも銃を持ち戦った八重が故郷の人々にこれらの言葉を残したといつことが彼女の信仰の証であり、故郷の人々への祈りであるよう

共に祈り、支えよう！

Let us pray for and support people and the Church together!

「東日本大震災救援募金のお願い」

教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共に「東日本大震災救援募金」にご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。

記

目標額 10億円(国内のみ)

期間 2011年7月1日~2015年3月31日

振替番号 00110-6-639331

加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31

2012年9月

教団救援対策本部長 石橋秀雄

第4756号

(第三種郵便物認可)

教 团 新 報

2012年9月15日

(2)



独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 小田豊理事長による講演

7月18日、伝道方策検討委員会の主催により、教団4階会議室で伝道研修会が開かれた。テーマは「子ども子育て新システム」とどう向き合うか：教会幼稚園・保育園のこれからを考える…。全国の教会幼稚園・教会保育園から、59名が集まった。講師は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の小田豊理事長。パネリストとして、保育所の立場から日本キリスト教保育所同盟の石井錦一牧師（松戸教会）、幼稚園の立場から岸憲秀牧師（千葉本町教会）そして認定こども園の立場から認定こども園七尾幼稚園園長の金土達雄牧師（七尾教会）が担当した。

7月18日、伝道方策検討委員会の主催により、教団4階会議室で伝道研修会が開かれた。テーマは「子ども子育て新システム」とどう向き合うか：教会幼稚園・保育園のこれからを考える…。全国の教会幼稚園・教会保育園から、59名が集まった。講師は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の小田豊理事長。パネリストとして、保育所の立場から日本キリスト教保育所同盟の石井錦一牧師（松戸教会）、幼稚園の立場から岸憲秀牧師（千葉本町教会）そして認定こども園の立場から認定こども園七尾幼稚園園長の金土達雄牧師（七尾教会）が担当した。

『子ども子育て新システム』とどう向き合うか 伝道方策検討委員会主催の研修会

定に直接関わり、「幼保一体化ワーキングチーム」のメンバーとして、「子ども子育て新システム」策定の議論にも、直接関わった人である。

おりしもこの会が開かれ

た7月18日は、「税と社会保

障一体改訂関連法案」が、

参議院の委員会で審議開始

された日であった。小田氏は幼稚園保育園関連三法の答弁をアシストする役割を終えて、この研修会に駆けつけた。

キリスト者として何を大

事にしてきたのか。今起こっていることは、どのように流れで起こっているのか。自身の体験を交えながら語った。

その中で「幼稚園には幼

稚園の役割があり、保育園

には保育園の役割がある。

さらに認定こども園には認

定こども園の役割がある

当した。

特に小田氏は文部科学省の元視学官で、幼稚園教育要領や保育所保育指針の策定に貢献した。

健全で安定した財務状況を構築する

予算決算臨時委員会を開催

（現）改訂教基理論に基づき、「改訂教基理論」について関係委員会の意見を聞くために、宣教研究所から上田光正委員、長谷川洋介委員が出席した。

その後、キリスト教主義学校・社会事業の重要性について、次のように活発な議論が行われた。議論は、会議室にて開催された。白戸清委員式による開会礼拝ではじめられた。

最初に、常議員会の要請に基づき、「改訂教基理論」について関係委員会の意見を聞くために、宣教研究所から上田光正委員、長谷川洋介委員が出席した。

（現）改訂教基理論との関係と「礼拝」に弱さがある。改訂作業は不十分な部分を補うために行われているとの説明を受け、その中で、「宣教基礎理論」は教団の中での位置づけが必ずしも明確ではない、「まえがき」にその旨を記すことが必要のように、信徒に分かれる言葉で記すことなどの意見が交された。

震会計監査の件、東日本大震災募金の報告、人事の件等の報告を受け、確認した。また、常議員会に提案した事柄の経緯について委員長より報告を受けた。

7月17日、第6回予算決算委員会が開催された。前月開催されたばかりであったが、今総会期の取り扱い事項が増えたことと将来に向かっての財政規模適正化の必要となつたためである。通常のように、前回議事録の確認を行い、その後、総幹事と財務幹事から、予算関係の承認の件、能登地

震会計監査の件、東日本大震災募金の報告、人事の件等の報告を受け、確認した。また、常議員会に提案した事柄の経緯について委員長より報告を受けた。

荒野の声

▼牧師は礼拝中その立場上、教会員とは逆の方向を向いている。十字架に背を向け、神様の

▼私たちには讃美し祈る礼拝で、罪の告白を持つ。どちら園法の改正が、審議され

ているとした。その上園園にとては、タイムリーパネリストを交えた会場

と述べ、「総合こども園という一つの制度ではなく、それの制度が残る認定こども園法の改正が、審議され

ている」とした。その上園園にとては、タイムリーパネリストを交えた会場



人事費支出等、困難なしかし避けては通ることの出来ない課題に取り組む

字架に背を向け、神様の

▼私たちには讃美し祈る礼拝で、罪の告白を持つ。どちら園法の改正が、審議され

ているとした。その上園園にとては、タイムリーパネリストを交えた会場

と述べ、「総合こども園とい

う一つの制度ではなく、そ

れ、教会幼稚園・教会保育

園にとては、タイムリーパネリストを交えた会場

主の召しに応えて

伝道のともしび

北のガリラヤに生きる

七戸教会牧師 野口 忠子

5周年を迎えた七戸教会の歩みは、決して平坦なものではありませんでした。105年の歴史の約半分が無牧（代務・兼務）であったことも、教会が置かれた状況を物語っています。

東北の農村の閉鎖性は想像を超えた厳しさであり、かつて高名な社会活動家であり伝道者である賀川豊彦を迎えて伝道集会を行ったとき、聴衆のうちの決心者は100名を超えたのに、そのうちの1人も受洗に至らなかつたという事実が、七戸伝道の困難さを示しています。



上：七戸教会前にて（野口忠子牧師）



右:七戸教会 2012年4月8日イースター礼拝後

◆教団ホームページをご存知ですか◆

URL <http://uccj.org/>

教団からのお知らせ、日毎の糧、
教団新報・教団ニュースレターの主要な記事、
また、東日本大震災救援対策のサイトもご覧になります。

日本基督教団東京地区
統一原理問題連絡会・相談会
左記の通り日本基督教
団東京地区統一原理問題
相談会を開催します。

仙台エマオから自転車で3分、
笹屋敷に向かう。そして、8月11
日2時46分、笹屋敷でボランティ
アをしている青年たちの自転車が
荒浜の海岸に向かう。
8月7日～15日まで、わたしは
日本基督教団の被災地支援を行
っているセンターに行き、ボラン
ティの方々と活動を共にした。
その活動の中心に8月11日午後
2時46分析りの時があった。
ある被災地の方が、その海岸を
さしながら、「あそこには、今だに
恐ろしくて行けない」とわたしに
話して下さった。津波の凄まじい

破壊の中で、何人の悲しい姿さらした地である。綺麗な海辺地獄図の地に変わってしまった。その地に自転車の青年たち列。

災地の方々は心を開いてくださり、その悲しい経験を話してください。その痛みを心にとめて黙とうをささげ、そして、日本基督教団議長として祈った。

キリスト者でない青年たちも生きな声でアーメンと祈りに心をさせてください。

被災地の方々とつながり、ボランティアの青年たちとつながり、そのつながりの中心に祈りがある。

この教団の被災地支援を経験できたことは感謝だ。

「信じていいま」と答えたことは印象深く心に残っているところだ。生徒会委員をするほど活動的だったが、中学3年生のとき燃えつき状態になり、食べることができなくなつた。

「い」と素直に思うことができたという。そして受洗へ導かれた「与えられた命だから神様のとして生きたい」と願うようになった。

やがて看護師の道へ。病院務で多くの限界状況にある人死の瞬間に立ち会い、生命は様の御手のうちにあるとの確を伝えられた。

その後、青山学院女子短期

きで、命を貢献してくださった方々に感謝の意を表す。「命を貢献してくださった方々に感謝の意を表す」と切に願うと語る。それは自身が聞き続けた主の呼びかけでもある。

教会役員を務め、「主曰く」といはれられ、新たにされ遣わされる。教会生活に忠実であることが自分的人生を根底から支えていく。日々、若き魂と向き合い続ける深谷さんの命の「いづみ」はまさに教会生活にある。

神は私を選び、愛してください」といふ（三才大1・33）。

あ
と
き

深谷いづみさん
えられた命を
まきの界として



東京生まれ、青山学院女子短期大学・シオン寮寮監、狛江教会員